

特集 てんかん ― 新しいパースペクティブ

企画 本誌編集委員会

特集の意図

最近、てんかんを取り巻く状況が慌ただしい。新規抗てんかん薬の相次ぐ認可、高齢者発症例の増加、てんかん患者による自動車事故およびそれに伴う運転免許の規制をめぐる動き。このような状況下で、多くの人がてんかんに興味を持ち始めている。その興味に応えるべく、今てんかんをめぐって何が起きているのか、歴史を踏まえつつさまざまな角度から整理し解説する。

特集の構成

1. 対談 てんかんの新しいトピックス（廣瀬源二郎，河村 満） てんかんにまつわる押さえておきたい最近の話題を、対談形式でわかりやすく紹介。
2. 「てんかん」を再度オーバービューする ― 歴史・分類・機序・治療（廣瀬源二郎） 今後の展望を見通すための土台として、長い歴史を持ちながらもいまだ解明には至っていない「てんかん」について多角的に論じる渾身のレビュー。
3. ヒトの神経生理からみた「てんかん」― 私の考える「てんかん」（宇川義一） 著者がこれまでに行った生理学的検査の経験をもとに、神経生理学的な観点から「てんかん」の病態に迫る。
4. てんかん原性脳形成異常の病理診断分類 ― 現状を正しく理解するためのガイド（新井信隆） 現在、てんかんの病理診断分類に混乱が生じている。これまでに発表された病理診断分類を詳細にレビューし、標準化への展望を考察する。
5. てんかんと高次脳機能障害（杉本あずさ，他） 痙攣発作や意識障害ではなく、健忘や失語、幻視といった高次脳機能障害を呈するてんかんがある。これらの紹介とともに、側頭葉てんかんを発症し、記憶障害を呈した急性辺縁系脳炎の症例も報告する。
6. 側頭葉てんかんと認知機能 ― 新しい認知機能研究への展開（山野光彦，他） 側頭葉てんかんの外科治療の経験から得た、てんかんと記憶機能との関連性および、てんかんが表情認知や意思決定などの社会的認知機能に及ぼす影響について解説する。
7. 非痙攣性てんかん重積状態の臨床と病態（永山正雄） てんかん発作＝痙攣発作という思い違いはいまだ根深く、非痙攣性てんかん重積状態（NCSE）の多くは、治療可能にもかかわらず、診療の場で見過ごされている可能性が高い。NCSEの正確な知識の普及のために、最新知見を網羅したレビュー。
8. てんかんの神経画像（山尾幸広，他） てんかんの画像検査には、脳の形態からてんかん焦点を同定する方法（形態画像）と、脳血流などから脳機能局在を同定する方法（機能画像）がある。両者について実際の症例画像を用いて解説する。